

# 傳設計ニュースレター

## CONTENTS

- ◆今、伝えたいこと  
～熊本地震から考える～
- ◆熊本地震で  
マンションが“割れた”?
- ◆T保育園竣工  
～長期に亘り建物を守る  
屋根・一原産業～
- ◆(仮称)レオマック新築工事
- ◆若手社員による  
「面白い田舎」についての一考察
- ◆社員名鑑
- ◆会社情報



## 今、伝えたいこと ～熊本地震から考える～

熊本県を中心に発生しました一連の地震により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。

先般の熊本地震は、震度7を記録する地震でした。私がいる福岡でも緊急地震速報が鳴り響き、長い揺れがあり、恐ろしい思いをしました。熊本の方はそれ以上の思いをされたと思います。私は、福岡県建築士事務所協会で世話役をさせていただいている関係で、福岡県からの情報も入ってきましたので、業界の動きと併せて少しお話させていただきます。

熊本地震から間もなくして、福岡県建築指導課より「応急危険度判定」の派遣要請がありました。応急危険度判定とは、地震を受けた建物による倒壊の危険性や外壁・窓ガラスの落下などの危険性を判定し、喚起を促すことで、人命にかかる二次的災害を防ぐことを目的とし、地震直後に行うもので



★応急危険度判定結果用紙★

です。その判定の結果は、色別された用紙(緑は「調査済」、黄色は「要注意」、赤は「危険」)で表示され、建物の見やすい場所に貼られます。このようにするのは、居住者だけでなく、歩行者、災害ボランティアなどにもその危険度を示すためです。応急危険度判定は、行政の職員だけでは対応が厳しい場合、私たちのような講習を受けた民間の建築士が「応急危険度判定士」としてボランティアで行くことになっています。今回は、4月23日から5月5日の間に、建築士会、建築士事務所協会、建築家協会、構造技術者協会の福岡県エリアの会員、のべ280名が熊本入りしました。結果、応急危険度判定に関して、一定の収束を迎えましたが、これはまだ始まりにしか過ぎません。事実、建築士事務所協会や弊社には、被災建物、所有建物に関して多くの問い合わせがあります。これからの生活のこと、お金のこと、たくさんの方の不安を抱える方を目の前にし、如何ともしがたい感情に陥りますが、被災者の方の心に寄り添える建築士でありたいと思います。弊社では、相談窓口を設置いたしましたので、被災建物、所有建物についてご不安がありましたら、ご一報ください。個別に対応させていただきます。(代表取締役 岩本 茂美)

### 岩本 茂美 (いわもと しげみ)

株式会社傳設計 代表取締役

《最近のこと》

3月に事務所協会の研修旅行で台湾へ。こちらの写真は宝覺寺の「弥勒大仏像」。弥勒仏とは七福神の布袋さんのことだそうです。約30mあるこの大仏の耳を触ると幸福が訪れ、おへそに触るとへそくりが増えるそうです。届かず…残念。



★金色でインパクト大★

### ★熊本地震でマンションが“割れた”？★

熊本地震の建物被災のニュースの中で、マンションが“割れた”として、建物の耐震性を疑問視する報道がありました。ニュースの中で“割れた”とされている箇所は“エキスパンションジョイント”と呼ばれており、揺れ方の異なる独立した建物が地震時にぶつかり損傷することの無いよう、建物間に必要なクリアランス(間隔)を確保し、そこにカバーを取り付けている箇所となります。つまり、地震のために建物が“割れた”



★地震により損傷したエキスパンションジョイント★

のではなく、初めから“切り離された”2つの棟であったといえます。地震の揺れによりエキスパンションジョイントのカバーが外れたため、建物が割れているかのように見えるわけです。仮に2棟の建物をつなげる、若しくは必要なクリアランスを確保できていなければ、被害は渡り廊下全体、または建物本体にまでに広がっていたと考えられます。今回の被害写真では、エキスパンションジョイントを設けている箇所であっても、建



★2棟の建物をつなぐエキスパンションジョイント★

物同士が衝突したことによる手摺壁コンクリートの損傷、剥落が見受けられたため、想定していたクリアランスを上回る揺れであったと考えられます。

建築に携わる人にとっては当然のことだとしても一般の方からすれば、目に見える建物の被害として不安になるのは当然です。私たちは、被災時に必要以上に不安を煽ることの無いよう、所有者、入居者に建物の構造についてしっかり説明し、理解してもらうことが重要だと感じました。(古賀(瞬))

## 傳設計 設計業務

以前、ニュースレターで紹介させていただいたT保育園が竣工いたしました。入社2年目の私は設計補助として、関わらせていただきました。

お施主様のご要望である「子どもの感覚を刺激するための鏡」の設置をアサヒ製鏡様に相談したところ、「割れない鏡面のステンレス」をご提案いただき、丸くカットしたものを廊下に設置いたしました。また、中廊下は採光がとり難く暗くなりがちですが、床に魚群をイメージしたステンレスの板を埋め込むことで、廊下の奥



★割れない鏡面のステンレス(アサヒ製鏡)★

の窓から入る光がステンレスにきらきらと反射し、明るい雰囲気をつくりだすことが出来ました。木材のささくれ防止などの安全性の検討は実際のサンプルでしていただきました。



★実際のサンプルで安全性検討中★

また、屋根材については、一原産業様から「Zルーフハイブリッド工法」をご提案いただき、陸屋根の部分に採用しました。この工法はコストパフォーマンスに優れているだけでなく、意匠性、施工性、高耐久性、環境性に優れた工法です。普段は

人の目に触れることが少ない屋根の部分ですが、建物の環境を守るためには最も重要な要素であると感じました。



★Zルーフハイブリッド工法(施工例)★

計画に関わっていく中で、さまざまな方のご協力があり建物が出来上がっていくことを実感しました。私も早く一人前の設計者となれるように、精進したいと思います。今後ともご指導・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。(深堀)

### ★T保育園竣工★～長期に亘り建物を守る屋根・一原産業～

### ★(仮称)レオマック新築工事★

この度、“知的な大人の女性”をターゲットとしたセレクトショップを経営するレオマック様の鉄骨造3階建ての複合施設の設計をさせていただくことになりました。1階が店舗、2階が貸テナント、3階にレオマック事務所が入る構成になります。施主様のご要望は大きく2つで、1つ目はお店のターゲットに見合うエレガントなファサード、そしてテナントとして借りたくなるファサードにすること、2つ目は間口を広くとり、敷地を有効に使いたいというものでした。



上の写真は現在の店舗です。ディスプレイが平面的に斜めになっており、外に開かれた形状で入店し易くなっています。今計画でもこの考え方は活用しようと考えました。



これは、最初のイメージを形にしたものです。エントランスの開かれた形状を継承していますが、今回

はディスプレイと反対側の袖壁で開かれた形状をとっています。



上の画像はCGで作成したパースです。商業地域であり、両隣の建物が将来的に接近して建つことが予想できたので、建物の顔であるファサード面を最大限とることが必要でした。色彩やサッシの割に関しては、今後、施主様と納得いくまで検討したいと思います。

最後になりましたが、店舗は来春OPEN予定で進めております。その頃には春と共にレオマック様にも心地の良い風が吹けば良いかと願っております。(石戸谷)

## NEW&HOT

## TOPIX

前回のニュースレターをご覧になった方から「設計事務所の若い社員が考える面白い田舎はどんなものか知りたい」というご連絡があり、早速、若手社員で話し合いました。

「田舎」と聞くと、一面に広がる田んぼ、公共交通機関が少なく不便な生活などを思い浮かべる方が多いと思います。確かにそういった面から過疎化が進行しているようですが、それを食い止めようと各地でさまざまな活動が行われているのをご存知でしょうか？

ここでは、日本有数の豪雪地、新潟県 越後妻有(えちごつまり)地域で行われる世界的な芸術祭、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ(以下、トリエンナーレ)」をご紹介します。「トリエンナーレ」は2000年から3年に一度

行われている芸術祭で、アートを通して地域の風土や伝統を発信するものです。その他にも、農業体験や雪の運動会など、季節に合わせた活動が行われており、今では「トリエンナーレ」の観光客だった方が「トリエンナーレ」のお手伝いを、そしてお手伝いをしていた方が越後妻有へ移住するというサイクルが生まれているそうです。



そうてんたいち  
★掃天帯土 一天水越の塔★

妻有の土を使い、住民と共に作った焼物を積み上げた、8mの塔です。



★土の教室★

このような事例から、都会にはない人とのつながりや価値観を求めている方がいることは明らかです。田舎に住む方からすれば、都会に住む私たちの方が退屈な生活を送っているように映っているかもしれません。

面白い田舎、それは一般的にはマイナスと捉えられる部分をプラスに変える知恵や行動力、つながる力を備えているところではないでしょうか。(才田・古賀(将)・鶴野)

### ★若手社員による「面白い田舎」についての一考察★

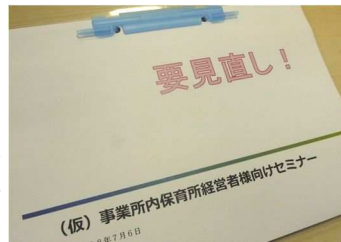
## ★事業所内保育所経営者セミナー開催★

ニュースレターで何度も取り上げていますが、今の採用難を解消するために女性、高齢者、外国人の採用が必要と謳われています。せっかく採用した社員が、力を発揮できるようになったのに子育てのため退職・・・企業としては残念と言わざるを得ません。弊社では、仕事と家庭を両立してもらうための手段の一つとして事業所内保育所の創設をあげています。



★イメージ★

事業所内保育所とは企業内に設置された託児所のことですが、弊社では働きたい子育て中の社員に働きやすい職場環境を創出すれば社員の意欲や定着率がアップとなり、ひいては会社の業績もアップすると考えています。政府も「事業所内保育を主軸とした企業主導型の多様な就労形態に対応したい」として約5万人分の保育の受け皿の確保を考えていますし、平成28年度から「企業主導型保育事業」に対して補助金が投入されることにもなっています。事業所内保育所の整備は今後ますます推進されるでしょう。



★セミナーテキスト作成中★

今回は株式会社船井総合研究所で事業所内保育所の設置サポートを専門にコンサルティングをされている服部雄太氏をお招きし、事業所内保育所の設置による企業側のメリットをお伝えするセミナーを開催いたします。もう間近です！ご予約は総務部まで。お待ちしております！（古屋）

■日時：平成28年7月6日（水）13：30～ ■場所：ホテルセンラーザ博多

## 社員名鑑 vol.19



氏名：林圭佑  
 社歴：3年3ヶ月  
 所属：設計2部  
 主な業務：構造設計、耐震診断  
 趣味：熱しやすく冷めやすいため、あまり長続きする趣味がないのですが、最近はホームベーカリーを購入したのでパン作りにはまっています！

建築を志した理由は、建築業に携わっている父親の影響です。現場によく連れていってもらい、大工さんの働きぶりや家が出来上がっていく様子を見て自分も建築の仕事がしたいと思い建築の学科に進学しました。そして、勉強していくうちに、建築の中でも一番大事だと思った構造という分野の設計に携わることとなりました。

暮らしの安心と安全を確かなものにする構造の設計のために必要な知識は膨大にあり、入社して4年目になりますが日々勉強の毎日です。資格の取得もあわせてこれからも建築ひとすじに進んでいきたいと思っています。

## ★インターンシップ生募集中★

弊社では、今年もインターンシップの参加者を募集しております。期間は8月～来年2月にかけて、1週間からご相談に応じます。昨年度も、意匠・構造ともに多くの学生さんにご参加いただきました。設計事務所として、設計を学んでいる学生さんが将来のことを考える際にお役に立てれば・・・と考えております。設計に目を輝かせる学生さんを目の当たりにすると、社員も初心を思い出されるようです。今年もお互いに刺激を受けられるような出会いに期待しております。設計を志している学生の皆様のご応募お待ちしております。詳細は弊社HPまたはリクナビ2018をご覧ください。（澤田）



★昨年のインターンシップ発表会★



「想い・安全・未来をカタチに」  
**株式会社 傳設計**  
 DEN ARCH. & ENG. OFFICE

＜本社＞

ADD:福岡市東区香椎駅前2-1-15

TEL:092-672-8538 FAX:092-672-8559

＜サテライトオフィス＞

ADD:福岡市東区香椎駅前2-12-41 302

TEL:092-692-4555 FAX:092-672-8559



◆ 編集後記／／／今般の熊本地震で、社長や社員から聞く話はニュースとは違った観点からのものが多く、改めて建築士や建物を建てるために必要な仕事に就かれている方は、高い専門性が求められていると思いました。どの企業様も熊本地震への対応はまだ続くと思います。お気をつけてご対応いただきたいと思います。／私ごとではございますが、名前が川上から古屋になりました。今後とも宜しく願いいたします。古屋